

海外所蔵の道東・千島の写真

ロミン・ヒッチコック Romyn Hitchcock 1851-1923
1888 (明治21) 北海道と色丹・択捉島調査 (写真約40枚がアメリカ国立人類学アーカイブに、調査地以外の旅行記が、コーネル大学附属図書館に保存)

ステン・ベルクマン Sten Bergman 1895-1975
スウェーデンの探検家。1930年頃に一般人立入禁止の中部を含め千島全域を踏査。千島アイヌの写真も。

De tusen öarna i Fjärran Östern : skildringar från en forskningsfärd till Kurilerna (1931) これに収録された写真が「写真集懐かしの千島」などが使用。「千島紀行」(加納一郎訳 1961)は抄訳で写真大幅削除
オリバー・オースチン Oliver L. Austin Jr. 1903-1988

GHQ天然資源局に勤務。Japanese Fur Sealing (Austin and Wilke 1950)

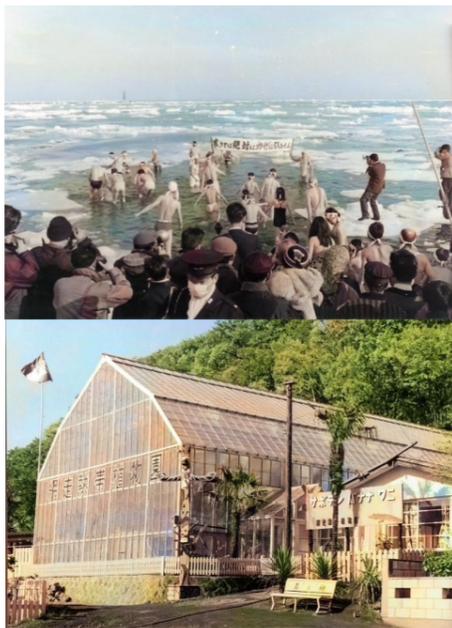
上：オースチン撮影の釧路 The Oliver L. Austin Photographic Collection より
右：Bergman 1931 収録の写真 松輪島のラッコ皮 色丹島の千島アイヌ

保存写真の利用方法



AIによる自動色付け

○向き不向き
海、空、緑は上手。
服や建物は困難。



左：Colorize Photos シアトルの会社 中：筑波大学のページ 両者とも無料
右上：流氷突破水中水泳大会 1962 右下：網走熱帯植物園 1960

○実際の使用感

ももいるクローバーの色彩鮮やかな衣装からわかるとおり、色彩の再現は必ずしもオリジナルに忠実ではなく、セピア調になりやすい。参考サイトに示したAlgorithmia社のサービスでは、やや派手に色づけされる。



元画像 白黒化 AIによる自動色づけ

画像データはhttps://img.barks.jp/image/review/1000151075/016_w660.jpgから取得。オリジナルデータの出所は不明

【参考ウェブサイト】

- ディープネットワークを用いた白黒写真の自動色付け <http://iizuka.cs.tsukuba.ac.jp/projects/colorization/web/> 上部画像のサイト colorization | 白黒画像をカラーに <https://colorize.dev.kaisou.misosi.ru> 上のページのシステムを利用したもの
- Colorize Photos <https://demos.algorithmia.com/colorize-photos/> シアトルのAlgorithmia社のサービス
- The Oliver L. Austin Photographic Collection <https://austin.as.fsu.edu/items/show/251>
フロリダ大学のオースチン氏の写真コレクション *データベースの画像は左右反転しているので注意

このレジュメは次の URL にあり、ただし明日まで
<http://nodaiweb.university.jp/muse/10.pdf>

十勝管内博物館学芸職員等協議会研修会
2020.2.18.Tue.14:00-16:30

写真の保存と利用の可能性 (表面と中面の一部) および ICOM京都大会 についての参加報告 (中面) 宇仁義和 (東京農業大学)



上段 左：上は中央のフィルムを入れていた保存缶 下はビネガーシンドロームで赤く変色したサクラカラーポジフィルム
中：NHK の番組を収録したモノクロ 16mm フィルム。ビネガーシンドロームによりふやけた湯葉のよう
右：1957 年のポジフィルム。赤くなっているのは販売品。コダックフィルムは色を保つが周縁部に変色が見られる
下段 左：1967 年の江ノ島マリリンランド。イルカの火の輪くぐりも貴重。ビネガーシンドロームが顕著に見られる
中：同年代 1956 年でもコダカラーは変色をしていない。保存方法は同一でポリ袋で密閉していた
右：ビネガーシンドロームで表面がぬれた状態となり所々に液滴が見られるサクラカラー すべて中島将行資料

1. フィルムの種類と保存上の課題

1) Nitrate ナイトレート (セルロイド Celluloid)

燃焼性が大きく自然発火する、燃えると消火不可能、1978年に米NARAで大規模火災

Disaster Strikes the National Archives: The 1978 Nitrate Vault Fire

<https://unwritten-record.blogs.archives.gov/2018/12/04/disaster-strikes-the-national-archives-the-1978-nitrate-vault-fire/>

2) Acetate アセテート

不燃性、フィルムセメントで接着可、日本では1950年代から製造フィルムベース不燃化へのチャレンジ - TACベースの開発

<https://www.fujifilm.co.jp/corporate/aboutus/history/ayumi/dai2-04.html>

問題はビネガーシンドローム Vinegar Syndrome

3) Polyester ポリエステル (ポリエチレンテレフタレート PET)

現在まで使用、製造は1990年代から

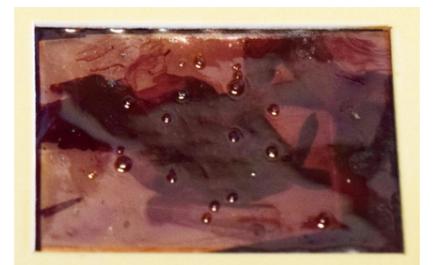
いまのところ保存に関するフィルム自体の問題は知られていない

4) 事例

中島将行氏 1928-2016 の遺品。

経歴：1957 江ノ島マリリンランド飼育課長、1977 伊豆・三津シーパラダイス館長、1982 日本初となるラッコを飼育、1993 横浜・八景島シーパラダイス

状況：顧問標本と異なり文書や写真、紙の資料は引き取る博物館がなく個人預かりとなる。動物園水族館では資料保存が困難。几帳面でスライドはシートごとにポリ袋に入れ、さらに1冊分を防備材とともに同様に袋詰め。ビネガーシンドロームが始まると機密性が高いため進行が早かった。サクラカラーが劇症。コダクロームは変化なし。



ビネガーシンドロームが進行し赤色化、表面には液滴が見られるサクラカラー

2. ガラス乾板 (Dry Plates, Glass Negatives) の保存と複写

1) 保存の方法

ジャストサイズの封筒または折り込みフォルダが一般的
ガラス乾板保存箱 縦置き型 (組み立て式)、フォルダー
https://www.hozon.co.jp/archival/product_order_14.html

2) 複写のコツ

乳剤面が上、フォーカスモードは広域、合焦点を多く
撮影後に左右反転と階調逆転、その後でレタッチ

3) 画質

ネガの画質はプリントをはるかに上回る。

3. 写真保存の文献とウェブページ

1) 書籍

写真保存の手引き (キーフ・インチ 1995)

古いのでフィルムまで、デジタルなし

文化財としてのガラス乾板 (久留島ら 2017)

写真と文化財の関わり (日本写真学会誌特別号 2004)

2) ウェブページ

ナイトレート・フィルムの保存

https://www.jstage.jst.go.jp/article/mls2001/16/2/16_2_41/_pdf/-char/ja

フィルムベース不燃化へのチャレンジ - TACベースの開発

<https://www.fujifilm.co.jp/corporate/aboutus/history/ayumi/dai2-04.html>

「フィルムの製造その1 フィルム・ベース」について

<http://fujifilm.jp/business/broadcastcinema/mpfilm/info/exposure/pdf/vol78/P20.pdf>

Disaster Strikes the National Archives/ The 1978 Nitrate Vault Fire – The Unwritten Record

ワシントンDCに隣接するメリーランド州のフィルム庫が自然発火で全焼。放送映像のデューブ後。写真あり

<https://unwritten-record.blogs.archives.gov/2018/12/04/disaster-strikes-the-national-archives-the-1978-nitrate-vault-fire/>

画像・映像資料の保存_全科協vo47no1

<http://jcs.jp/wp-content/uploads/news/PDF/vo47no1.pdf>

平成19年度文化庁「我が国の写真フィルムの保存・活用に関する調査研究」報告書

やや古いが写真家の自宅を訪問しての実態報告は生々しい

<http://www.jps.gr.jp/wp-content/uploads/2014/08/H19center.pdf>

ガラス乾板保存箱 縦置き型(組み立て式)

株式会社資料保存器材 商品はオーダーが基本で高価

https://www.hozon.co.jp/archival/product_order_14.html

ICOM京都大会と歩き方

1. イコムの基礎知識

博物館に関する唯一の世界組織

国内委員会と国際委員会(分科会)から構成

会員証の提示により世界の多くの博物館が無料

団体会員と個人会員からなる、投票権は委員会執行部のみ

大会は3年に1回、別に年次大会があり分科会も年会を開催

2. イコムの余分知識

京都大会の正式呼称は「アイコム」

国際機関ではなくNGO よって政府が直接の予算措置ができない(金が無い理由にはならない)

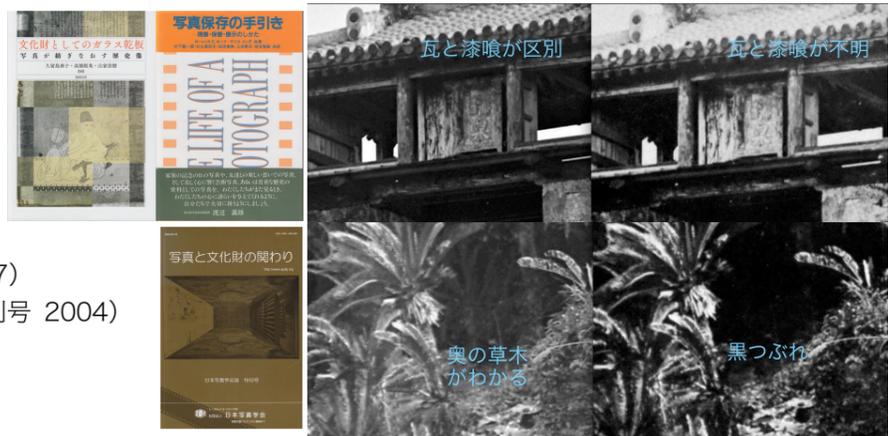
欧州仕様まま世界化 会員数は大陸に集中、人口を反映しない。アメリカも少ない

分科会の活動や内容のばらつきが大きい 過去の参加報告書には恨み辛み泣き言が掲載

アジアでの大会はソウル(2004)、上海(2010)につづき3回目

ASEMUS (Asia-Europe Museum Network) が対抗組織? <https://culture360.asef.org/asemus-culture360/>

左: アメリカ自然史博物館、右: Vestfoldarkivet (ノルウェー)



1910年の首里城瑞泉門 R. C. Andrews

画像・映像資料の保存_全科協vo47no1

<http://jcs.jp/wp-content/uploads/news/PDF/vo47no1.pdf>

平成19年度文化庁「我が国の写真フィルムの保存・活用に関する調査研究」報告書

やや古いが写真家の自宅を訪問しての実態報告は生々しい

<http://www.jps.gr.jp/wp-content/uploads/2014/08/H19center.pdf>

ガラス乾板保存箱 縦置き型(組み立て式)

株式会社資料保存器材 商品はオーダーが基本で高価

https://www.hozon.co.jp/archival/product_order_14.html

ICOMの会場となった
国立京都国際会館



脱植民地化がメインテーマ。欧州基準を丸出し
左右は音声認識自動翻訳「おもてなしガイド」
https://www.yamaha.com/ia/news_release/2019/19090502/

3. 博物館の定義の見直しは延期

臨時総会 Extraordinary General Assembly (EGA) で採択予定だった博物館の新定義の議決は延期された

現行の定義は2007年のウイーン大会で採択されたもの

博物館とは、社会とその発展に貢献するため、有形、無形の人類学の遺産とその環境を、教育、研究、楽しみ
を目的として収集、保存、調査研究、普及、展示する公衆に開かれた非営利の常設機関である

イコム規約(2017年6月改訂) https://www.j-muse.or.jp/icom/ja/pdf/ICOM_regulations.pdf

新定義(芦田彩葵氏による和訳)

博物館は、過去と未来についての批判的な対話のための、民主化を促す、包摂的でさまざまな声に耳を傾ける空間である。博物館は、現在の紛争や課題を認め、それらに取り組みながら、社会から託された制作物や標本を保存し、未来の世代のために多様な記憶を守り、すべての人々に遺産に対する平等な権利と平等な利用を保証する。博物館は、営利を目的としない。博物館は、開かれた透明性のある存在であり、人間の尊厳と社会正義、全世界の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的とする。そのために、多様なコミュニティと積極的に連携しながら、収集、保存、研究、解明、展示を行ない、世界についての理解を向上させるための活動を行なう。

「ICOM博物館定義の再考」が示すもの—第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019

https://artscape.jp/report/topics/10157593_4278.html

原文は Creating a new museum definition - the backbone of ICOM

<https://icom.museum/en/activities/standards-guidelines/museum-definition/>

*私見では新定義は定義というより決意表明=使命 mission に思える



日本の大学博物館のブース。これも台湾のがよかった

4. いまからできるICOM京都大会の歩き方

分科会のプログラムを見るのは分科会のウェブサイトから

専用ページまたは分科会トップページに飛ぶ

<https://icom-kyoto-2019.org/jp/index.html>

ICOM京都大会トップ>プログラム>発表募集>行きたい分科会をクリック>リンクをクリック

ICOM京都大会関連文書(会員専用ファイルのコピー) 紙媒体は回覧します

<https://www.dropbox.com/sh/hk6bx03sbzgp3qd/AABTBsaraJw2R5TQDFIjw7bOa?dl=0>

5. 開催に向けた準備

2005 栗原祐司氏(京都国立博物館副館長)がアメリカから帰国、博物館行政担当となる

2008 「地域と共に歩む博物館育成事業」アジア・太平洋地域の博物館連携にかかる総合調査

2009 ICOM-ASPAC (イコムのアジア太平洋地域連盟 議長:韓国、事務局:北京)の開催 科博12月

2015 ICOM京都大会招致決定招致決定

2016 英語使いをミラノ大会の分科会に派遣

6. ICOM京都大会の報告や文書など

ICOM京都大会公式ウェブサイト

<https://icom-kyoto-2019.org/jp/>

ネットで読めるICOM大会の参加報告(過去の)

<http://unisan.jugem.jp/?eid=25>

ICOM(国際博物館会議)京都大会が閉幕

「美術手帖」の短報、参加者数、日本の提案内容ほか国の担当者視点の総括

<https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/20510>

ICOM(国際博物館会議)の意義とは何か? いま、あらためて京都大会を振り返る←オススメ

—昨日2/16の新着文書。著者は和歌山県立近代美術館の青木加苗学芸員。長文下部「注釈リスト」もクリック

<https://bijutsutecho.com/magazine/insight/21339>

ICOM第25回京都大会 臨時総会(博物館の定義の変更)日本語ツイート 新しいのが上、リンクは最終ページ

<https://togetter.com/li/1400853?page=3>

平成21年度 アジア・太平洋地域の博物館連携にかかる総合調査報告書

上記2008年の調査の報告、2009 ICOM-ASPAC日本会議の概要も収録

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shinko/hokoku/h20/1409472.html

ICOM日本委員会2018年度理事会資料(会員専用ファイルのコピー)

<https://www.dropbox.com/sh/8f8jfl786017xg4/AABlgS3okU0C40-pBmpqIWkoa?dl=0>

ICOM日本委員会2019年度総会資料(会員専用ファイルのコピー)

https://www.dropbox.com/sh/lt5yvw90o6i0t9v/AAB_wUC47ECvUQMyka96gpk3a?dl=0



左: 配布資料 右: 総会などがおこなわれたメイン会場



ミュージアムフェアでは台湾のブースが目をついた